

## 留学報告書 ～新しい世界～

マキーワン大学  
外国語学部生（長期）

カナダの中央あたりにエドモントンという街があります。エドモントンは最低気温マイナス 30 度を超える日があるようなとても寒い街です。ここまで寒いからと言って何も無いわけではありません。エドモントンの中心にあるダウンタウンにはたくさんのレストランが建ち並んでおり、西側にはいろいろなエンターテインメントが詰まっているカナダ最大級のショッピングモール（West Edmonton Mall）があります。それだけでなく豊かな自然溢れる景色が広がる公園も数多く存在します。さらになんと、日本のアニメ「機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ」の一部でこの街が舞台となっています。私は約 8 ヶ月間この街にあるマキーワン大学に留学していました。この報告書ではマキーワン大学への留学で、楽しかった経験や苦しかった経験について書こうと思います。



長期留学が始まる前の夏休み、私はこのマキーワン大学への留学をとっても楽しみにしていました。とは言っても、楽しみばかりというわけではありません。それまで海外に行ったことがないどころか、飛行機にすら乗ったことがなかったため、それなりに不安もありました。それでも今まで留学を目指して勉強してきて、その夢がもうすぐ叶うという喜びやこれからの今までにない経験ができる楽しみの方が大きかったため、あまり不安を感じなかったのだろうと今になって思います。

しかし、現実楽しいことばかりではありませんでした。私は成田国際空港からバンクーバー国際空港を経由してエドモントン国際空港に到着する予定でしたが、いざバンクー

パーに着くと、とんでもない数の人々が入国審査のために長蛇の列を作っていました。9月から新学期が始まるからなのかよくわかりませんでしたが、この混雑によって予定していたフライトを逃してしまいました。別のフライトを予約するためにカウンターに行き手続きを行いました。この時、自分の英語力では聞き取れなかったり理解できなかったりする箇所が多く、会話を円滑に進めることがとても難しかったことを覚えています。英語のリスニングが苦手だったからかもしれませんが、日本にいて英語で会話する時のスピードと現地で会話する時のスピードとはかなり差があるように感じました。その後マキーン大学の寮に到着し、自分の部屋にたどり着くまで、話すスピードに圧倒されたままでした。「まだ留学は始まったばかりで会話のスピードに慣れていないから仕方ない、これからもっと頑張ろう」と思うようにしましたが、正直なところ、この先しっかりコミュニケーションをとっていけるのか不安になっていました。

マキーン大学に到着して数日後、留学生のためのオリエンテーションが開かれました。そこにはヨーロッパの国から来た留学生がほとんどでアジアから来た人はあまり見受けられません。日本人以外の留学生は英語が上手な人ばかりで、とても焦りました。頑張って話かけて、専攻を聞いてみるとコンピューターサイエンスや音楽という回答ばかりでESLを取る人は日本人以外ではいませんでした。

ESLの授業では1日に1コマ80分の授業を3コマ受けていました。スピーキングとリスニング、ライティングとリーディング、文法の3つの授業です。ESLでは生徒はほとんど30~40代、もしくはそれ以上の年齢の方々に、年が近い人はごく僅かでした。アジア圏から移民してきた人が多く、それぞれの国で英語になまりがありました。そのため初めて話した時は本当に何を言っているのかわからないということも多々ありました。私の英語にしてみても日本人特有のなまりがあがるため、お互い通じ合えないということもありました。ここで一番苦労したのは、全ての授業で必ず1度は行われるプレゼンテーションです。特にスピーキング、リスニングの授業ではプレゼンテーションの機会が多く設けられます。1人で行う場合にはそこまで苦労しませんが、ペアやグループでプレゼンテーションを行う場合、話し合いが必須です。ただでさえ普通の英語を聞くだけでも大変に思っていたため、なまっている英語はさらに聞き取ることが困難でした。このようなことが最初のうちは頻繁に起こり、プレゼンテーションを1つこなすにも大変だとは思いましたが、留学後半にはだいぶ慣れてきて会話がスムーズになっていました。留学後半にある程度会話が楽にできるようになったことには授業以外の活動の影響もあります。

ESLの授業が始まったのと同様くらいのタイミングで日本語クラブに所属し、週1回前日のミーティングと当日の活動に参加していました。前日のミーティングで次の日のクラブ活動で行う内容（日本の文化クイズや福笑いのような日本の遊び）を決めて当日にその決めた活動内容を実行するというような流れで毎週クラブの手伝いをしていました。もちろん最初はESLの授業と同様に、会話のスピードについていけなかったり、自分の言いたいことをうまく伝えられなかったりして悔しいと思うことがありました。ですが、マキーン

ン大学の日本語クラブはとてもオープンな雰囲気、日本文化が好きな人が多く、中には日本語を話せる人もいました。ESL の授業と違ったところはこのオープンな雰囲気です。誰でも話しやすいところと日本語を話すことができる人がいるということでした。私が 1 度英語の会話に参加して所々会話内容がわからずにいると日本語を話せる友達が日本語で教えてくれました。留学に来てまでして日本語に頼ってしまうことを情けなく思いましたが、少しすると、それまで理解できなかったであろうと思える会話が少しずつ理解できるようになっていました。わからなかった英語を日本語で理解して覚えて次に会話でその英語が出てきた時に自然と思い出せるようになっていたのかもしれませんが。どうして以前より英語が聞き取れるようになったのか明確にはわかりませんが、この日本語クラブのオープンな雰囲気と人柄の良さに救われていたのは確かなことだと思います。日本での人間関係とは 180 度違うように思えるほどカナダで経験した人間関係はオープンで、日本語クラブでは 2 週間に 1 回くらいのペースで新しい人が数人参加していました。友達とスキーに行った時でも、当日全く知らない 2 人と合流して一緒にご飯を食べてスキーをしたことがありました。このように固定のメンバーで固まらず、見ず知らずの相手でも以前会ったことがあるかのように接することができるのはとても魅力的な文化でした。それだから日本の文化は嫌いというわけではありません。カナダと比べて、日本では固定のメンバーで固まることが多いというのは私が個人的に思うことです。ただ、私は知らないうちに自分は固定された人間関係の中だけで生活しているのかもしれないと考えさせられるような感覚があり、少し自分の中で人と関わることの価値観が変わったように思います。今後は今までより人間関係を広げていろいろな人と関わってみたいと思えるようになりました。

コロナウイルスの影響で 3 月以降はオンライン授業に切り替わり、クラブ活動は停止、レストランやゲームセンターのような娯楽施設はほとんど閉まってしまったため、留学最後の 1 ヶ月で会えた友達はわずかで、あまり良い終わり方とは言えません。それでもマキーンワン大学で英語を学べたこと、英語だけでなくたくさんの人間関係の中で海外の文化を学べたことに変わりはなく、この経験は自分の世界観を少し変えてくれた大切な宝物です。この素晴らしい経験を忘れることなく、これからの新しい日々を弛みなく歩んでいこうと



思います。

